

◆厚労省委託事業

がんのゲノム医療従事者研修事業 平成29年（2017年）より 受託



1. がんのゲノム医療の実用化に必要な医療従事者の育成

委員長：大江 裕一郎（国立がん研究センター中央病院）

協力学会：日本癌治療学会，日本癌学会，日本人類遺伝学会，日本遺伝看護学会，がん看護学会，日本臨床衛生検査技師会，日本臨床腫瘍薬学会

がんのゲノム医療の実用化に必要な医療従事者（**がんゲノム医療コーディネーター**）として、がんのゲノム医療に関する遺伝子関連検査、患者・家族への伝え方、多職種との連携、意思決定支援等について必要な知識・態度・技術の習得を目指すことを目的として、座学による研修・グループ学習などを含む研修会を年2～3回実施。

修了者数：1,353名（2021/2/14現在）／2020年度は、研修会2回と地域モデル研修会1回を開催

2020年度からは、木下一郎（北海道大学病院）WG長の下、中核拠点病院と連携して、企画・開催

2. がん相談支援センターにおける相談の対応方法等についての検討及び支援

委員長：西尾 和人（近畿大学ゲノム生物学）

ゲノム医療に係るがん相談支援センター窓口対応マニュアルを作成する。

国立がん研究センターにおいて実施中のがん相談支援センター相談員研修との連携を諮り、ゲノム医療に関わるがん相談業務で必要とされるゲノム医療に関する、基本姿勢、普遍的知識、およびそれらを踏まえた上で扱うこととなる遺伝子検査等に関する知識を学ぶ機会を検討する。



R5年度について：厚労省委託事業は終了

- がんゲノム医療中核拠点病院はゲノム医療に携わる医療従事者に対して必要な研修を行うことが求められている。
- がんゲノム医療における医師以外の医療従事者に対するゲノム医療コーディネーター育成のための **研修プログラムや研修資材の作成**については、R5-R7年度厚労科研へ織田班（旧瀬戸班）の分担研究として応募しているところ。
- 研修会の実施について、中核拠点病院で費用を分担し、**JSMOに事務局を委託し**、多施設合同で実施することも可能。